

防災歳時記 (38)

—これで実況を打ち切ります—

NHK 放送用語委員会専門委員

元 気象庁天気相談所長

宮澤 清治

火の海に沈む家並み

洞爺丸の悲劇の翌年 1955 年 9 月 30 日、九州を縦断して日本海に出た台風 22 号は、速度を速めて同夜佐渡沖を通過した。10 月 1 日午前 3 時過ぎ、台風が津軽半島の西約 100 キロに達したころ、新潟市では最大瞬間風速西南西 33.6m/s(10 月としては歴代 2 位)の強風が吹き荒れた。

「台風 22 号が佐渡沖を通過中です。風がだんだん強くなってきました。ラジオのスイッチを切らないで下さい」とアナウンサーは訴える。放送を聞いた市民の不安が募っていたやさき、けたたましいサイレンの響きが新潟市全市に鳴りわたった。

午前 2 時 50 分ごろ、市内学校町通りの県教育庁から出火し炎が走った。旭町通りなどの民家をはじめ、東中通りの商店街を次々と焼き尽くし、さらに火は西堀通り、古町通り、礎町通りへと広がった。

目抜き通りの小林百貨店の屋上から火が吐いたと見たら、間もなく古町十字路の大型店舗が火の海に沈んだ。

狂った火勢は四方八方に飛び、方向違いの佐渡汽船発着所近くにも火の手が上がる。耐火建築の銀行のビル街も、透き間をくぐ



写真 1 新潟市の万代橋 (01年6月写す)

り抜けて飛び込む火勢によって音をたてて崩れていく。

猛火は 1 日午前 9 時 50 分ようやく収まった。市の中心部の大半が灰となり、焼失面積約 25 万 7 千平方 m、焼失棟数 972、被災世帯 1,193、死者 1 人、負傷者 275 人など。

市内の空き地という空き地に避難者の家財道具が居並び、市民にとって悪夢の 7 時間だった。

これで実況を打ち切ります

ラジオ新潟(後の新潟放送:開局は 1952 年 12 月)では、定時放送終了後も放送を延長して台風情報や大火の状況を伝えた。

「教育庁全焼、アメリカ文化センターも

焼け、さらに延焼の危険がある」「東中通り
に延焼、新潟日報社も危険」「北村知事は新
発田の自衛隊に出動を要請」などの情報が
次々と電波に乗る。

市の中心部にある大和百貨店 7 階のラジ
オ新潟の本社スタジオからは、市街地をな
めて広がる猛火を一望の下に見渡すことが
できる。この屋上からの実況中継を決め
る。真っ赤に焼けたトタン板や木片が火の
玉となって飛ぶ中で、午前 4 時 15 分、丹波
国夫アナによる中継が始まった。

「ラジオをお開きの皆さん、ラジオ新潟
の皆さん、私はただいま、大和百貨店の屋上
から放送しております」

丹波はコードで、体を鉄柵に縛りつけ、傍
らの報道部長仙波哲がメモ書きした情報を
渡して実況放送を続けた。

かくするうちに火災は勢いを増し、市の
中心部に広がった。大和百貨店と道路一つ
隔てた小林百貨店に火が入った。周囲は一
面、火の海と化し、熱気と煙でアナの声はか
すれる。

「小林百貨店からも火が出ました。もう、
これ以上は危険ですから放送を続けること
はできません。ではこれで実況を打ち切り
ます」の声を最後に放送は途絶えた。4 時 35
分であったが、1 分後には郊外の送信所から
放送を再開、大火のもようや市民への避難
の指示を放送し続けた。本社スタジオは全
員が退避した直後の 4 時 50 分、炎上した。

本社への類焼の危険が高まっていたのに
もかかわらず、実況中継で大火の様子を伝
え、市民に避難誘導を指示するなどしたラ
ジオ新潟の放送は大きな反響を呼んだ。郵
政大臣や新潟県知事からは感謝状が贈られ、



写真2 新潟港（新潟市朱鷺メッセ展室、高さ125mから）

翌 56 年の第 4 回民放大会では初めて設けら
れた優秀報道番組の表彰を受けた。

約半世紀前の新潟大火のときは、ラジオ
が大活躍したが、現代はテレビ時代でもあ
る。

「もう、立ってはいられません！」と現場
からアナウンサーが叫ぶ。あらしで樹木が
波打ち、横殴りの雨で体が倒れそうになる
のを、揺れるカメラが映し出す。米国のハリ
ケーンの実況放送でも、あらしの中で風雨
に打たれながら中継しているのを見た。

自然が猛威を振るときは、人間はとて
も太刀打ちできない。危険が迫ったら、早く
安全なところに逃げるのが一番であること
をラジオ新潟が教えてくれた。

それにしても、今年(2004 年)は台風の日
本への上陸数が 10 個(平年は 2.6 個)。台風
が来すぎるにもほどがある。

【参考文献】

日本放送協会編(2001):20 世紀放送史上巻、P341.